連載　第22回

私のはんせい記

～「改修設計」事始め ～

建築家　三木　哲

● 修繕設計建築家集団の形成

建築家の過半が、未だに新築する建物の設計に情熱を傾けていたころ、JIAメンテナンス分科会の建築家たちは既存建物の修繕設計という、かつて日本の建築界になかった全く新たな分野を切り開いていった。

メンテナンス分科会の会員は管理組合から依頼された修繕業務を互いに手伝い、助け合って受託するようにした。経験豊富な建築家と、初めて修繕を体験する建築家が共同で業務を行った。調査診断や修繕計画・設計、工事監理や管理組合との打合せ、居住者説明会の実施など修繕設計の実際や合意形成の仕方、居住者に解りやすいプレゼンテーション、報告書作成等のコツが伝えられる。

そうした実践的な共同作業を通して、新築の設計と異なる修繕設計の手法を確立し、そのノウハウが伝えられ、日本初の修繕・改修設計建築家集団が形成されていった。

アンケート調査票の作成、詳細目視調査や報告書の作成、修繕設計・特記仕様書や見積記載項目一覧の作成、現場説明会・質疑応答から工事監理まで、2～3年かかる業務を一緒に実行することにより、計画修繕工事の計画・設計業務の実務は相互に共有するものとなった。

共同設計・五月社はメンテナンス分科会の発足以降、毎年数件の修繕設計と新築建物の設計依頼を受けていた。新築計画・設計は所内のスタッフが作業し、修繕設計業務は分科会の友人たちに手伝ってもらうものもあった。

私は田辺邦男さん、近藤武志さん、山田俊二さん、柴田幸夫さん、岸崎隆生さんらに、多くの業務のお手伝いをお願いした。

かくして共同で業務を遂行することにより、調査、修繕計画・設計の新たな課題やノウハウは蓄積・継承された。汎建築研究所、AI建築設計、八生設計事務所、柴田建築事務所、スペースユニオン、日欧設計事務所、田辺邦男、共同設計・五月社の修繕設計図書や報告書の質は高くなり「日本建築家協会・メンテナンス分科会スタイル」が確立された。これらの事務所が既存建物の修繕・改修設計業務を受託できる日本で最初の建築設計事務所であった。

新築された集合住宅群は長期的修繕計画と修繕・改修設計の始まりを待っていた。（多摩ニュータウン）

1995年に発刊した書籍「建築設計資料・50　集合住宅のメンテナンスとリニューアル」は、この頃のJIAメンテナンス分科会の修繕設計のスタイルが表現された作品集である。

同書は日本で最初の修繕計画・設計の既存建物の修繕設計資料であり、旧来の建築家のあり方に疑問を感じていた日本全国各地の建築家たちに多大な影響を与えた。

700戸の大規模団地の第1回目の大規模修繕工事の発注仕様書、見積要綱、修繕設計仕上表など一式が全文記載され、また、部位別修繕・改修技法が記載され、陸屋根断熱防水修繕、外壁躯体修繕、外壁吹付塗装、剥す技術と被せる技術、鉄部塗装、給排水設備修繕、電気幹線更新、屋外環境整備など52項目の部位別修繕手法が解説されている。

加えてニュータウンや都市型大規模団地、賃貸マンションやリゾートマンション等の修繕・改修事例、電気幹線や給水設備の更新事例、集会所やコミュニテー施設の増改築工事例や住棟の増改築計画案やインテリアリフォーム、さらには同潤会アパートの建替えをめぐる調査診断資料など、今井俊一さん、竹田恭子さんの協力を得て10事例が記載されている。

この書籍は20年以上経過した今でもその内容は新鮮で質が高く、有効な資料となっている。

このような地道な活動を通して、メンテナンス分科会の質は向上し、会員数は増えていった。

みき・てつ
㈲共同設計・五月社一級建築士事務所顧問。1943年生まれ。建築家がメンテナンスを手がけることなど考えられなかった時代から「改修」に携わり、30 年以上にわたって同分野を開拓し続けてきたパイオニア。